



まち音一首

まちやいえから音を拾って、
カルタにして遊ぼう！

日本建築学会主催
第5回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ
最優秀賞 受賞



会場（まちなかサロン）でのカルタ大会の様子



まち歩きの様子・各チームに学生が4名ずつ付く



カルタ作成中の真剣な表情



最後、参加者全員での記念撮影

1. 概要

主催：まち音一首実行委員会・まちづくりサークルえん（前橋工科大学公認部活動）・日本建築学会
後援：前橋市・前橋工科大学・前橋市教育委員会・前橋市社会福祉協議会・前橋中心商店街協同組合・
前橋中央通り商店街振興組合・上毛新聞社・群馬テレビ・まえばし CITY エフエム
協力：アーツ前橋

開催日時：2015年10月18日（日） 10:00～15:00
開催場所：群馬県前橋市

まちなかサロン（前橋市千代田町2丁目11-1 鈴木ストアビル1階）・中央商店街周辺
参加者：前橋市内の小学生10名（+当日参加4名）、保護者4名（見学）
企画：まち音一首実行委員会（小松 温・前澤 佑美・吉田 祐介・中村 仁美・井上 太平・深野 真亜留）
運営スタッフ：まちづくりサークルえん 学生18名

2. ワークショップの内容

近年、地方都市における中心市街地や商店街の多くが衰退の危機に瀕しており、シャッター商店街や空き家が増加する反面、人は大都市に流れてしまい、大きな問題となっている。私たちの大学がある群馬県前橋市も残念ながらその一つである。
本ワークショップでは、私たちは衰退する都市に住む子どもたちが故郷をどのように感じているのかを第一に考え、写真として風景を切り取ることで、そしてその時代に生活した証とも言えるまちに溢れる音を拾うこと、さらにカルタとして残すことで、その時々の子どものまちや地域と共有することが大きな目的である。

このワークショップによる参加者への効果

子供

音を拾い風景を切り取ることで、
自分の住んでいるまちを考える・感じる
機会になる。

まちの住民

子ども達がまちのどこに関心を持ったかを切口に、
シャッター街への対策へのヒントとなる。
また、商店街の魅力の再発見につながる。

学生

県外出身者が多く中で、
今自分達が暮らしているまちに
対しての理解が深まる。

3. ワークショップ当日の流れ



10:00 集合

開会のあいさつ・内容説明を行う。
チーム分け発表（赤城・榛名・妙義・浅間）



10:15 まち歩きスタート

4つの班に分かれてまちから聞こえる音を探しに行く。
見つけたらその場で、読み札の句を下書きする。



11:40 カルタ作成

戻ってきたらすぐに読札の清書を始める。
撮ってきた写真には「音シール」を作り、ペタッ！



13:30 カルタ大会

午前中に作った大判カルタでカルタ大会。
第1戦はチーム対抗、第2戦は個人戦で勝負！



15:00 閉会

完成した『まち音カルタ』を贈呈。
保護者の方に迎えに来ていただき、解散。

4. 成果物

- ・まち歩きで音を探す
- ・小学生が読札を考え、
学生が音の出ている場所の写真を撮る

- ・読札の清書
- ・PC班が印刷しておいた写真の取札に
音を言葉にした「音シール」を貼り付ける

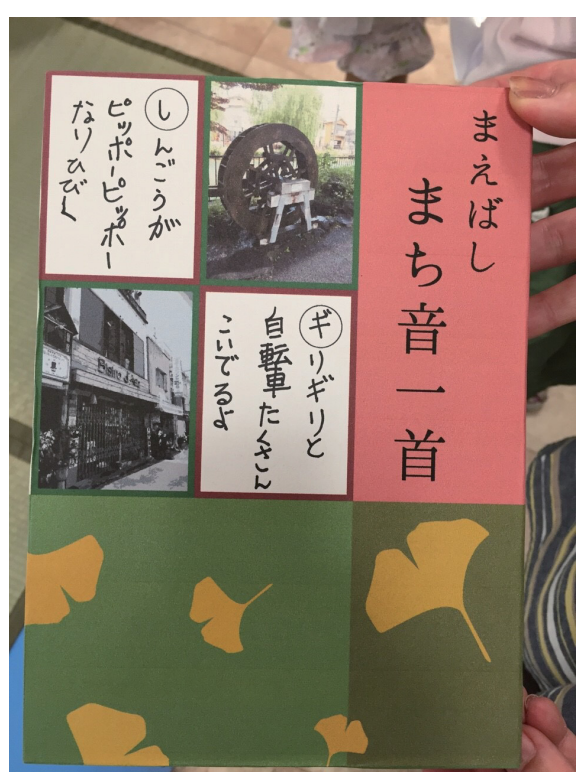
- ・小学生たちがカルタ大会をしている
間に、学生は配布用のカルタを製作
- ・大判カルタをスキャンし、量産する

- ・あらかじめ作っておいた箱に収納する
- ・箱の表には、小学生が自分で拾って考
えた音の読札を手書きしてもらう

成果物の大判カルタと配布用カルタ

大判はカルタ大会用のみ1組、
配布用は世帯数分製作した

まち音一首の作り方



まち音一首 完成！

